

〈睡眠編〉

TIPS 16

睡眠時無呼吸症候群の治療が
肥満の治療になることもある

睡眠時無呼吸症候群と肥満

睡眠時無呼吸症候群は、睡眠時に気道が圧迫され、連動して舌が気道を塞ぎ、眠っている間に窒息が起こり、苦しくなって、目が覚めてしまう病気です。

「いびき」をかくことと、その「いびき」が止まってしまいう「呼吸停止」を特徴とします。慢性的に睡眠状態が悪いので、肥満を含め、睡眠障害に伴ういろいろな障害が出現します。

鼻から入れる管（カテーテル）や、持続陽圧呼吸療法（Continuous Positive Airway Pressure：CPAP）を行なうための呼吸補助器具を用いて治療します。

私の外来にも、呼吸器科の先生にお願いして睡眠時無呼吸症候群を治療しただけで、少し体重が減って、メタボ関係の血液検査の結果が正常に戻られた方が複数お

られます。

肥満で、いびきをかく、いびきが止まってしまう、などの症状がある方は、呼吸器科の専門医と相談されるとよいと思います。

しかし、睡眠時無呼吸症候群の治療だけで、完全に肥満から解放されたという患者さんにはまだお会いしたことがありません。

